福島県教育旅行事例集

（追加版）

平成２６年９月

公益財団法人福島県観光物産交流協会

目　　次

修　学　旅　行

福岡県立修猷館（しゅうゆうかん）高等学校／いわき市　・・・・　３
兵庫県立吉川（よかわ）高等学校／相馬市　・・・・　４
宮崎日本大学高等学校／いわき市，猪苗代町　・・・・　５
船橋市立御滝中学校（千葉県）／会津若松市，北塩原村　・・・・　６
佐渡市の小学校２校（新潟県）／会津若松市　・・・・　７
岡山県立岡山南高等学校／いわき市　・・・・　８
草加市立高砂小学校（埼玉県）／会津若松市，猪苗代町　・・・・　９

林　間　学　校

松伏町立松伏中学校（埼玉県）／南会津町　・・・・　１０
品川区立荏原第一中学校（東京都）／北塩原村，会津若松市　・・・・　１１
東京都市大学付属小学校／天栄村　・・・・　１２
和洋国府台女子中学校（千葉県）／北塩原村　・・・・　１３

国　際　交　流

フィリピンの大学生／南会津町　・・・・　１４
カリフォルニア大学アーバイン校／福島市　・・・・　１５

震災学習・ボランティア

那須町立黒田原中学校（栃木県）／いわき市　・・・・　１６
桐陽高等学校（静岡県）／いわき市　・・・・　１７

合　　宿

船橋市立船橋高等学校陸上部（千葉県）／北塩原村　・・・・　１８
慶應義塾大学準硬式野球部／いわき市　・・・・　１９
世田谷区立東深沢中学校の野球部，サッカー部（東京都）／猪苗代町，郡山市　・・・・　２０

イ　ベ　ン　ト　等

「第２２回ＪＯＣジュニアオリンピックカップハンドボール大会」／福島市　・・・・　２１
「ハイスクールサミットｉｎ東北」／いわき市　・・・・　２２
沖縄県「さとうきび親善大使」／猪苗代町　・・・・　２３

福岡県立修猷館（しゅうゆうかん）高校が福島県で研修旅行を行いました！

福岡県立修猷館高校の２年生３６５名が平成２６年１月６日から３泊４日の日程で宮城県と福島県で東北研修旅行を行いました。福島県には８日から９日にかけて１泊２日の日程で会津若松市やいわき市を訪れました。震災後、本県で教育旅行を実施する福岡県の学校は同校が初めて。

８日は、会津地区といわき地区に分かれて歴史学習や被災地視察などが行われましたが、今回は、いわき地区のコースに同行して取材をさせていただきました。

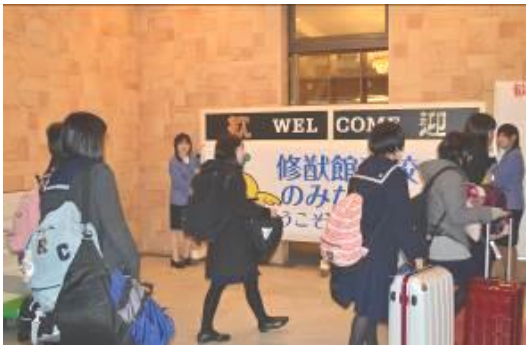
この日、生徒たちは、いわき市の久ノ浜海岸の被害状況を視察し、津波の爪痕を信じられない様子で見入っていました。その後、生徒たちは、耕作放棄地を活用し栽培されているオーガニックコットンの収穫体験を行い、復興へ向けた地域の取組を学びました。

翌日の９日は、宿舎となったスパリゾートハワイアンズにおいて、警察官、消防士、フラガールなど６０名とのグループ討議が行われ、地元の人たちが語る震災当時の状況や今後の課題についての話に生徒たちは真剣な表情で聴き入り、自分たちが震災復興や震災を風化させないためには何ができるかなどの意見交換を行いました。

同校の奥山校長に本県での研修旅行の感想を伺ったところ、「テレビや新聞で情報は入ってくるが、実際に見て、聞いて、感じることが大切だ。生徒たちには、震災そのものを謙虚に学び、教訓にするとともに、福島県が抱える現状と課題について当事者意識を持って考え、将来に繋げていってもらいたい」と話してくれました。

被災地視察の様子

オーガニックコットンの説明を受ける生徒たち



横断幕でお出迎え

グループ討議の様子

修学旅行

兵庫県立吉川（よかわ）高校が相馬市などで修学旅行を実施！

兵庫県立吉川高校の２年生９３名が平成２６年１月２０日から１泊２日の日程で兵庫県立吉川高校の２年生９３名が修学旅行で福島県北部の太平洋に面した相馬市と新地町を訪れました。同校は昨年８月に１～３年生の有志２６名がボランティア活動と東日本大震災義捐金贈呈のため本県を訪れたのに続き、今回で２度目の来県となります。

初日、生徒たちは津波の被害があった沿岸部で市の担当者から震災の様子や復興状況について説明を受け、その後相馬市長を表敬訪問し、折り鶴とモザイクアートを相馬市に贈呈しました。相馬市松川浦の宿泊先では、震災語り部の五十嵐ひで子さんから津波の被害によりご家族を亡くされたことなどの話があり、命の大切さを学びました。

２日目の２１日は、各クラスに分かれ、釣師浜（つるしはま）海水浴場と原釜・小浜海水浴場のゴミ拾いや松川浦環境公園の除草作業を行いました。また、相馬共同火力発電・新地発電所では、施設の紹介や震災復旧状況について話を聴きました。

その後一行は、相馬光陽パークゴルフ場へ移動し、同市の飯豊小学校の６年生４１名と一緒にパークゴルフ大会で交流を深め、最後に和田観光いちご園で旬のいちご狩りを楽しみました。

引率の清水先生は「生徒には、自分自身の目で見て、耳で聞いて、肌で感じてほしい。少しでも被災地に元気を届けられればと思い来ました」と話していただきました。

相馬市長に折り鶴とモザイクアートを贈呈

海水浴場でゴミ拾い作業

小学生と一緒にパークゴルフ大会

甘くて美味しいいちご狩り

宮崎日本大学高校が猪苗代町などで修学旅行を実施！

宮崎県の宮崎日本大学高校２年生４０２名が平成２６年３月４日から４泊５日の日程で福島県と東京都などで修学旅行を行いました。福島県には４日から学科ごとに２泊３日又は３泊４日の日程で猪苗代町に宿泊・滞在しました。

生徒たちは４日、いわき市で震災講話を聞いた後にホテルに到着しました。到着の際には、お出迎えの八重たんと記念撮影をする生徒もいて、地元の方々の大歓迎に大喜びの様子でした。

総合進学科２年生の矢北楓さんに到着時に福島県の印象を伺ったところ「部活遠征などで、いろいろな施設を訪れたが横断幕や八重たんのようなキャラクターが歓迎してくれたのは初めてで嬉しかった。震災での体験談などを聴くことができて、自分の意識が変わった」と福島県ならではの体験やおもてなしについての感想を語ってくれました。

５日は、生徒たちは初めての雪景色に感激した様子で、雪の感触を楽しんでいました。スキーはほとんどの生徒が初めてで最初は悪戦苦闘していたものの、徐々に上達し笑顔で楽しそうに滑っている姿が印象的でした。

総合進学科２年生の男成一吹さんは「スキー場で一面の雪を見て、興奮した。徐々にスキーも滑れるようになってきたので、今度は中級者コースでも滑れるようになりたい」と抱負をにこやかに話してくれました。

生徒たちは６日までスキー研修を行い、次の訪問先の東京都へ向かいました。

八重たんと横断幕でお出迎え

八重たんと記念撮影する生徒たち

スキー研修の様子

集合写真

修学旅行

千葉県船橋市立御滝中学校が会津若松市と北塩原村で修学旅行を実施！

千葉県船橋市立御滝中学校３年生２０８名が、平成２６年６月４日から６日までの２泊３日の日程で、修学旅行のため会津若松市と北塩原村を訪れました。

同校は昭和５４年から会津地方を修学旅行の地とし毎年訪れていました。震災後の３年間は他県での実施でしたが、今年度から再開し今回で３３回目の来訪となるということです。

修学旅行初日の４日は、生徒たちがそれぞれの班に分かれて会津若松市内を散策し、史跡の見学や絵ろうそくの絵付けを体験するなど、会津の歴史や伝統文化について学びました。

会津若松市内の東山温泉に宿泊した一行は、翌５日、「会津ふれあい体験学習」として、市内約５０か所の事業所に分かれて職場体験を実施しました。職場体験先の民芸品店に取材に伺ったところ、生徒たちは店主の指導を受けながら、商品のラッピング作業や、会津漆が施されたビーズでのアクセサリー製作に励んでいました。完成したアクセサリーは商品として実際に店頭に並べられるため、生徒たちは一つ一つ心を込めて丁寧に作り上げていました。生徒の小圷（こあくつ）優佳さんは、「携帯ストラップを作ったが、ひもやビーズの色の組み合わせにこだわって楽しく作業ができた」と色鮮やかな携帯ストラップを掲げながら話してくれました。

鶴ヶ城での職場体験では、庭園の芝生の手入れのほか、入場者の接客を体験しましたが、生徒たちは笑顔で観光客に接していました。入場案内のスタッフの仕事を体験した古川開都さんは、「体験を通じて地元の方との絆が深まった。震災後の福島にまだ不安を持つ人もいるかもしれないが、自然や歴史が豊富で良いところなので、もっとたくさんの人に訪れてほしい」と話していました。

その後生徒たちは次の宿泊地となる北塩原村のペンション１２軒に分宿し、翌６日には五色沼の散策やキャンプ場でバーベキューを行い、福島の自然を満喫しました。

民芸品店で職場体験学習

携帯ストラップを製作

鶴ヶ城天守閣で職場体験学習

天守閣入口で入場券の確認

新潟県佐渡市の小学校２校が修学旅行で会津若松市の仮設住宅を訪問。

新潟県佐渡市の畑野小学校６年生３３名と七浦小学校６年生６名が、平成２６年６月１９日から２０日、１泊２日の日程で会津若松市と猪苗代町を訪れました。

１９日は、会津若松市内にある仮設住宅を学校ごとに訪問。児童たちは震災により大熊町から会津若松市に避難している自治会長の塚本英一さんらから、震災当日や避難先での状況、仮設住宅での暮らしについて説明を受けました。

「避難所を何か所も回って、やっと入ることができた」「寒い夜、家族３人１枚の毛布で寝た」など、普段聞くことのできない震災体験を、児童たちはメモを取りながら熱心に聞き入っていました。また、「震災で友達と離れ離れになった孫が、その後再開して元気を取り戻した。子どもにとって友達が本当に大切」という住民の言葉に、児童たちはお互いの顔を見合いながら共感している様子でした。

講話後に行われた質疑応答では、「仮設住宅は誰が建てたのか」「家賃はかかるのか」「住み心地はどうか」といった住まいに関することや、「津波の高さは何メートルだったか」「震災から命を守るには何が大切か」といった質問がなされました。児童たちは震災の事前学習を行ったことや、通っている小学校が海に近いことから、津波の話になると一層真剣な表情で耳を傾けていました。

その後各校は、鶴ヶ城や御薬園、飯盛山などで班別自主研修を行い、翌２０日は日新館や野口英世記念館などを訪れ本県の歴史を学びました。

質問をする児童（畑野小学校）

お礼の手紙を読み上げる代表（畑野小学校）

熱心に震災講話を聴く児童たち（七浦小学校）

熱心に震災講話を聴く児童たち（七浦小学校）

修学旅行

岡山県立岡山南高校が修学旅行でいわき市を訪れました！

岡山県立岡山南高校の２年生１８８名が、平成２６年７月２日に修学旅行でいわき市を訪れました。

同校は、関東と北海道方面の２コースに分かれて修学旅行を実施し、そのうち関東コースを選択した生徒たちが、いわき市で社会貢献活動を行いました。

いわき市に到着した一行は、いわき市社会福祉センターで、市の基本情報や震災時の状況、震災後に行われたボランティア活動の様子などの震災講話を聴きました。地震や津波被害に加え、風評被害の影響を受けたいわき市においてどのような活動が行われてきたか、生徒たちはメモをとりながら真剣な表情で聴き入っていました。

講話の後、生徒たちは事前に選択した復興支援見学・農業・水産・高校訪問・コットンプロジェクトの５コースに分かれました。取材のため同行させていただいた水産コースでは、魚市場でのモニタリング検査の様子を見学したほか、県水産試験場が行っている水産物の安全性確保のための調査などについて学びました。

生徒の皆さんに感想を伺ったところ、木村有佐さんは「福島は食品の検査をしっかり行っていて安全だと思った。テレビのニュースでは見ることができないことを知ることができた」と語っていました。また、吉田和史さんは「いわき市は潮風が気持ちよくて良い場所だと思った。水産業の話を聴いて、自分も漁に参加してみたくなった」と初めて訪れた福島県の感想を笑顔で話してくれました。

いわき市社会福祉センターでの震災講話

小名浜港での震災講話

魚市場での水産物モニタリング検査

水産コースの集合写真

埼玉県草加市立高砂小学校が会津地方で農村体験学習と修学旅行を実施！

埼玉県草加市立高砂小学校の６年生１４１名が、平成２６年８月２６日から２９日までの３泊４日の日程で、昭和村での農村体験学習と会津若松市・猪苗代町での修学旅行を実施しました。

一行は、行程前半の２６日から２７日までは昭和村で農村体験学習を実施。からむし織りやかすみ草の染色体験、そば打ちの体験のほか、地元の昭和小学校の児童と交流を図りました。

翌２８日からは会津若松市や猪苗代町を修学旅行で訪れ、取材に伺った２８日は、それまで薄曇りだった空が、ちょうど会津若松市内の鶴ヶ城へ到着する頃には雲の隙間から青空が顔を出し始め、鶴ヶ城を初めて見る児童たちも多く、青空の下に美しく映えるインパクトあるお城に「すごい！大きい！」といった歓声があがっていました。その後、市内の工芸店で赤べこの絵付け体験を行い、最初は初めての絵付けに戸惑いがちだった児童たちも少しずつイメージが沸いてきた様子で、思い思いの色で絵付けを楽しんでいたのが印象的でした。

児童の井上佳奈さんにお話を伺うと「鶴ヶ城には初めて来た。昔の銃などに触ることもできて歴史について勉強になった。赤べこの絵付けは、意外と難しかったがとても楽しかった」と笑顔で話してくれました。一行は、飯盛山も見学し、この日は市内の東山温泉に宿泊。翌２９日には市内の日新館や猪苗代町の野口英世記念館を訪れました。

同校は、震災前から本県で教育旅行を行っており、震災が起きた平成２３年以降も本県での農村体験活動や歴史学習を継続して実施しています。

昔の銃を手に取り学習する児童

鶴ヶ城前で全体写真

真剣な表情で赤べこの絵付け

飯盛山で歴史学習

林
間
学
校

埼玉県葛飾郡松伏町立松伏中学校が南会津町で宿泊体験学習を実施！

埼玉県松伏葛飾郡松伏町立松伏中学校２年生１２８名が、平成２６年５月２９日から３０日までの１泊２日の日程で南会津町を訪れ、宿泊体験学習を行いました。

同校は長年にわたり南会津町で教育旅行を行っており、１年次にはスキー教室、２年次には宿泊体験学習、３年次には南会津町の方を同校に招いてそば打ち体験を行っています。震災後も「南会津町との絆を大切にしたい」という思いから地元の方との交流を続けており、宿泊体験学習は今回で１３年目の実施となります。

２９日はそれぞれのグループに分かれ、林業体験や農家交流体験などの自然体験活動が行われました。林業体験では、町有林地で森林組合の方の指導の下、枝打ちや植樹作業を行い、初めて枝打ちに挑戦した生徒の星野さんは「のこぎりが上手く使えず大変だったが、慣れてくるとスムーズに枝を切ることができた」と額に汗を浮かべながら語っていました。復興応援のシンボルとして松やブナの苗木植樹も行われ、生徒たちは福島県の復興の思いを苗木に託していました。

その後、生徒たちは分宿先のペンションに移動し、オーナーと音楽演奏を楽しんだり、町の自然について語り合うなど交流を深めていました。生徒の鹿野さんは「１年生の時にもスキー教室で南会津町を訪れたが、その時とは違う景色を楽しめた。南会津町は季節によっていろいろな体験ができる場所だと感じた。ペンションの方も優しく迎えてくれて嬉しかった」と今回の体験の感想を笑顔で話してくれました。

３０日の郷土料理体験では、地元の方々とそば打ちやすいとん作りをし、また、ハットとよばれる伝統料理にもチャレンジし、南会津町の家庭料理を味わいました。

苗木植樹の指導を受ける

植樹の為の穴掘り

藁草履造り体験

ペンションで集合写真

品川区立荏原第一中学校が北塩原村と会津若松市で移動教室を実施！

東京都の品川区立荏原第一中学校１年生１５１名が、平成２６年７月７日から９日までの２泊３日の日程で、北塩原村での自然体験と会津若松市での歴史学習を行う移動教室を実施しました。

同校は平成５年から震災前の平成２２年まで福島県内で移動教室を実施しており、雨天時の代替施設や受入れ体制等が整っていることから、震災後も昨年度から本県での移動教室を再開しています。

移動教室の初日となる７日正午過ぎ、北塩原村に到着した生徒たちは、小学校時代の飯ごう炊飯の経験を生かし、五色沼近くの飯ごう炊飯場でバーベキューを行いました。施設のスタッフから豚汁も振る舞われ、おかわりをする生徒も大勢いました。

午後はガイドとともに五色沼を散策し、湖沼群の成り立ちや、周辺に生息する動植物について学びました。生徒たちは森林に響く小鳥の声や川のせせらぎに耳を傾け、青や緑に輝く五色沼湖沼群に見入っていました。実行委員の二人から話を伺ったところ、黒瀬有利奈さんは「五色沼が予想していたよりきれいだった。ガイドの方の説明で、五色沼の色の不思議や自然について知ることができた」と語ってくれました。また、鶴見颯大さんは「みんなと食べたバーベキューがおいしかった。福島では東京にはない自然をたくさん見ることができた。今回の移動教室では特に鶴ヶ城見学を楽しみにしている」と、これからの体験に期待を膨らませていました。

翌８日は、雄国山登山や檜原湖でモーターボート乗船とキャンプファイヤーを楽しみ、最終日の９日は、会津若松市を訪れ、會津藩校日新館や鶴ヶ城を見学しました。

バーベキュー

お肉、野菜、豚汁を頬張る

五色沼でガイドの説明を聞く

五色沼散策

林間学校

東京都市大学付属小学校が天栄村のブリティッシュヒルズで林間学校を実施！

東京都市大学付属小学校４年生８０名が、平成２６年７月１３日から１６日の３泊４日の日程で、天栄村のブリティッシュヒルズを訪れました。同施設は「パスポートのいらない英国」といわれ、日常と違った雰囲気の中で英語やマナーを学べる研修施設となっています。

例年は、他県で山登り体験などの林間学校を行なっていましたが、同校では全学年で英語の時間を取り入れるなど語学力の向上に力を入れているため、今年は異文化体験学習を目的としてブリティッシュヒルズがある本県を訪れることとしたそうです。

取材に伺った１３日は初日にもかかわらず、積極的に英語を話す児童たちの姿が見られました。その後、映画のシーンに出てくるような英国式のメインダイニングルームに移動し、早速学んだばかりのマナーを実践しながらビュッフェスタイルの美味しい昼食に舌鼓を打ちました。

その後、自らチェックインを済ませた生徒たちは、いよいよ本格的なレッスンを開始しました。授業はすべて外国人スタッフによる英語で行われるため、懸命に講師の言葉に耳を傾け、体を動かしながら楽しく学んでいました。藤野英輝さんは「先生がおもしろくて優しい人たちだった。（単語を作る）すごろくゲームが特に楽しかった」と話していました。野本笑理さんは「英語は元々好きだったが、今回の体験でもっと好きになった」と笑顔で答えていました。加藤汐理さんは「お城のようで素敵な場所。滞在中はスコーン作りもするのでとても楽しみ」とこれから待っている楽しい体験に目を輝かせていました。

２日目以降は、英国スポーツやキャンドル作り、英語を使っての買い物など、福島県に居ながら本国並みの英国文化をたくさん学びました。

メインダイニングルームで昼食を食べる

英語でチェックインする

すごろくを使って英語のレッスン

左から野本さん、藤野さん、加藤さん

千葉県の和洋国府台女子中学校が北塩原村などで林間学校を実施！

千葉県の和洋国府台女子中学校の２年生１１２名が、平成２６年７月２４日から２７日までの３泊４日の日程で、会津　若松市、猪苗代町及び北塩原村を訪れ、林間学校を実施しました。同校は、東日本大震災の翌年は来県を断念したものの、約１０年にわたって本県で林間学校を行なっています。また、秋の学園祭には福島県のブースを設けるなど、本県との交流を深めてきました。

２４日午後、　本県入りした一行は、会津若松市の日新館を見学し、五色沼散策、磐梯山登山などを行いました。猪苗代町でのブルーベリー収穫体験では、自分で摘み取ったブルーベリーを使ったジャム作りや、採れたての野菜を使ったピザ作りを体験しました。

取材に伺った２６日の夜は、生徒たちが楽しみにしていたキャンプファイヤーが実施されました。点火されると同時に、大きな歓声があがりました。「燃えろよ燃えろ」の合唱やフォークダンス、クラスごとのダンス発表など、炎の灯りを中心に最後の夜を楽しく過ごしました。

代表委員の玉井さんは、「磐梯山登山は大変だったが、山から見た景色が疲れを忘れさせてくれた。発表したダンスの練習で苦労したこともあったが、成功して良かった」と答えてくれました。同代表委員の市岡さんは、「ブルーベリーの収穫など初めてのことばかり。真っ赤なトマトが甘くておいしかった。中学校最後の林間学校で良い思い出が出来た」と語ってくれました。

学年主任の中川先生に福島県の感想をお聞きしたところ「受け入れてくれる方々の温かさと熱意が嬉しい。体験学習の相談にも誠意をもって応えてくれた。また、こづゆなど地元の食材を使ったメニューを丁寧に説明してくれるのも良かった。福島県の良さを生徒はもちろん、多くの方に感じてほしい」と話していました。

ブルーベリージャム作り

磐梯山登山

松明に点火

全員で輪になりフォークダンス

国際

フィリピンの大学生が南会津で農業体験と学校交流を実施！

日本政府が進める青少年交流事業「ＪＥＮＥＳＹＳ２．０」の一環として、平成２６年５月２８日から６月２日の５泊６日の日程で、フィリピンの大学生５２名が南会津町を訪れました。

取材に伺った５月３０日には、同町の農業生産法人「伊南の郷」で初めて農業体験に挑戦していました。機械での田植えを見学した後、数名の学生は実際に試乗させてもらい、説明を受けながら田植え機を操作していました。その後、学生全員が手植えにより田植えを行い、泥の感触に歓声を挙げていました。参加者の一人コンさんに感想を伺ったところ、「南会津は手付かずの自然があり、水や空気がとても綺麗で素敵な場所だと思った。田植えは難しかったが、本当に楽しかった。今回のプログラムで体験したことは、家族や友人とシェアして広めていきたい」と、田植えの疲れも見せずに笑顔で話していました。

田植えを終えた一行は、同町の舘岩地区の南会津高校で学校交流を行いました。交流会では茶道や書道を体験したり、地域の伝統芸能「早乙女踊り」を観賞しました。フィリピンの学生からは、現地の踊りや歌が披露されました。学生たちは南会津高校の生徒たちと英語や身振り手振りでコミュニケーションをとり交流を深めていました。ドレンさんは「茶道など初めて体験するいい機会になった。福島と聞くと、３年前の地震や津波などの被害を心配したが、実際に訪れてみると大丈夫なことが分かって安心した。早乙女踊りが一番印象に残っていて、シンプルだが素晴らしい踊りだった」と福島で体験したことを楽しそうに語っていました。

その後、ホームステイをする農家の方々との対面式に臨み、各ホストファミリーとの交流も楽しみました。

初めての田植え体験

南会津高校で習字の体験

南会津高校の学生と集合写真

ホームステイをする農家の方々と対面

カリフォルニア大学アーバイン校の訪日団が福島大学で学校交流を実施！

日本政府が進める青少年交流事業「KAKEHASHI Project」の一環として、平成２６年６月２６日から３０日の４泊５日の日程で、カリフォルニア大学アーバイン校の訪日団２３名が福島市、喜多方市、会津若松市を訪れました。

６月２６日、本県に到着した一行は、福島市にある株式会社ヤクルト本社福島工場を見学し、その後福島県庁を表敬訪問しました。

取材に伺った翌２７日は、福島大学との学校交流を実施していました。学校交流では、始めに福島大学学長から歓迎の挨拶があり、その後実施された「英語コミュニケーション」の授業での意見交換で親交を深めました。昼食の時間には福島大学の学生らによって歓迎会が開かれ、英語を使ったゲームなどを通して一段と距離が縮まった様子でした。

カリフォルニア大学アーバイン校のクリストファーさんは「福島県を実際に訪問してみると、震災が起きたとは思えないほど、皆が普通の生活を送っている。日本の建築物を見るのが楽しみだ。」と話してくれました。また、同大学のテイラーさんは「福島の人々のおもてなしが嬉しい。アメリカでは福島の報道が少ないので、震災について細かい情報が聞ける良い機会だ」と語っていました。

午後は、福島大学の学生がクイズを交えながら、伝統工芸品のあかべこの由来や観光など福島の魅力を紹介しました。また、柔道、剣道、書道を実際に体験し、日本の文化に触れました。

２８日以降は、喜多方市で蔵の見学や農業体験などを行ったほか、会津若松市の鶴ヶ城などを訪れ、本県の歴史、自然、産業等を学びました。

英語でコミュニケーション

柔道体験

剣道体験

左からテイラーさんとクリストファーさん

栃木県那須町立黒田原中学校がいわき市で復興支援研修を実施！

栃木県那須町立黒田原中学校２年生１０１名が、平成２６年４月２３日から２４日の日程で、いわき市と田村市を訪れました。同校は、震災直後の平成２３年４月に会津若松市を遠足で訪れていますが、今回は、生徒たちから「福島復興のために、ボランティア活動をしたい」という多くの声があったため、いわき市での震災学習や仮設住宅でボランティアを行程に取り組み入れました。

２３日にいわき市に到着した一行は、薄磯海岸にある山六観光を訪れ、津波が来た時の体験談や今後の活動についての講話を聴きました。この後、移動バスの車窓から被災地を視察し、いわき市の現状や被災時の状況を学びました。生徒の鎌田嶺也（かまたれいや）さんは「震災直後は自分も大変だったと思っていたが、福島ではさらに大変な被害を受けたことを知った。将来は自衛隊を目指しているので、被災した方々が元の場所に戻れるような手助けをしていきたい」と真剣な表情で話していました。

その後生徒たちは２班に分かれ、仮設住宅集会所や周辺の未続（すえつぎ）駅で草むしりとゴミ拾いのボランティア活動を行いながら居住している方々と交流しました。生徒の中村咲綾（なかむらさや）さんは「私たちが被災された方たちに元気になってほしいという気持ちで今回訪問したが、皆さんから笑顔で迎えられ、逆に私たちの方が元気をもらった」と話してくれました。

生徒たちはボランティア活動の後、市内の久之浜中学校との交流会に参加し、翌２４日には、アクアマリンふくしまや田村市のあぶくま洞を見学しました。

山六観光で津波の体験談を真剣に聞く

仮設住宅敷地内で草刈りのボランティア

仮設住宅近くの未続駅の清掃

仮設住宅に住む方との交流

静岡県の桐陽高校がいわき市で被災地研修を実施！

静岡県の沼津学園桐陽高校の１年生１８６名が平成２６年６月１９日から２０日までの１泊２日の日程で、いわき市で被災地研修旅行を実施しました。

１９日午後、福島県入りした生徒たちは、原発事故の影響で震災当時のままの姿のＪＲ富岡駅を見学した後、宿泊先のいわき市常磐地区のホテルに到着しました。宿泊先のホテルでは、被災地体験講座として、震災を経験した方から当時の状況などの話しを聴きました。

取材に伺った２０日は、いわき市の豊間小学校において図書券の贈呈式が行われました。生徒たちから豊間小学校に贈られた図書券の購入費用は、桐陽高校の全校生徒が空き缶を集めリサイクル用に売却した収益が充てられたということで、同校では東日本大震災以降に、被災地でのボランティアなど多くの活動を行っています。今回の訪問も福島復興への一助と、生徒に多くのことを学んでほしいという思いから実現しました。

その後、生徒たちは薄磯地区にある山六観光で震災講話を聴きました。津波被害の大きかった同地区の震災時の状況について、店内に展示された写真を見ながら説明を受けました。震災後、防災についての意識が高まっていることもあり、生徒たちは真剣な眼差しで聴き入っていました。

生徒の方々に研修の感想を伺ったところ、土屋菊美さんは「今回研修で巡った場所では、３年経っても当時のままの所もあり驚いた。震災後しばらくは自由な生活ができなかったとの話を伺い、想像以上に大変だったことが分かった」と話してくれました。また、磯部彰彦さんは「静岡では東海地震の不安もあり、他人事には思えない。実際に来てみて、テレビなどでは見ることができない様々なものを見て感じることができたのでそれを周りの人に伝えていきたい」と研修の成果と抱負を語ってくれました。

図書券を寄贈する前の生徒代表挨拶

山六観光での震災講話

風が強いなか塩屋岬の前で記念撮影

取材をさせていただいた生徒たち

合

宿

千葉県船橋市立船橋高等学校の陸上部が北塩原村で合宿を実施！

平成２６年８月５日から９日までの４泊５日の日程で、千葉県船橋市立船橋高等学校の陸上部５２名とコーチ２名の計５４名が合宿で北塩原村を訪れました。同校は女子が平成２４年から、男子は平成２５年から本県で合宿を行っています。

取材に伺った８月６日は、高原特有の涼しく爽やかな風が吹く中で練習に励んでいました。部長の掛け声に部員たちが応え、真剣さとチームワークの良さが感じられる練習風景でした。

男子副部長（３年）の伊勢翔吾さん（種目：長距離５，０００メートル）は「福島県は朝と夕方の気温が低く練習するのに適した環境。昨年よりもタイムが速くなっているので、この合宿で良いイメージを掴み１２月に行われる全国高等学校駅伝競走大会に出場したい」と抱負を熱く語ってくれました。

女子部長（３年）の相澤汐里さん（種目：長距離３，０００メートル）は「練習メニューをやり遂げるのはもちろんのこと、更なる要素を部員たちには求めたい。そのためには自分が率先して行動し、みんなの模範となれるよう頑張りたい」と力強く話してくれました。

陸上部は県大会で優勝し、１２月の全国高等学校駅伝競走大会に出場することを誓っていました。

声を出しながらウォーミングアップ

トラックの直線を全力疾走

ゆっくりしたスピードでのジョキング

準備運動も終わり本格的に走り込む様子

慶應義塾大学準硬式野球部がいわき市で合宿を実施！

平成２６年８月９日から１６日の７泊８日の日程で、慶應義塾大学準硬式野球部の７３名が初めていわき市で合宿を実施しました。

取材に伺った１０日は、７名の部員がいわきグリーンスタジアムで、磐城リトルリーグとシニアリーグの小中学生２７名を対象に野球教室を開きました。

同大学準硬式野球部が子どもたち相手に野球教室を行ったのは初めての経験でしたが、準備運動の大切さやバッティングの姿勢などを丁寧に指導していました。また、磐城リトルリーグとシニアリーグの子どもたちも普段とは違う指導者の下、真剣に取組んでいました。

同部の堤省悟さん（３年生）は「いわき市は夏なのに海の風が大変涼しく、合宿の最終日まで充実した練習ができそう。子どもたちに指導することによって自分たちも学べる機会となり貴重な経験をさせてもらっている」と話していました。また、同大学の梅澤廉さん（３年生）は「指導している子どもの中に、将来甲子園出場が夢の子がいるので、より一層本気で指導をしている。野球の技術を教えることも大切だが、うまくいかなかったときやスランプに陥った時の対処法も自分たちの経験を含めて話をしたい」と二人は熱心に指導をしていました。同部の織戸晃監督は「８月末に秋季リーグがあるため、この合宿が一番大事な練習となる。また、いわき市から合宿の練習会場や宿泊施設等の手配について色々と協力をしていただいた。環境が整っているため来年度以降の利用も検討している」と語っていました。

その後、リトルリーグの保護者が作ったカレーライスを皆で食べ、野球以外に勉強や学校などの話も交え、交流を深めていました。

集合写真

野球教室の様子

子どもたちとカレーライスを食べながらの交流

左から堤省悟さん、梅澤廉さん

合

宿

東京都世田谷区立東深沢中学校の野球部・サッカー部が猪苗代町と郡山市で合宿を実施！

平成２６年８月４日から９日までの５泊６日の日程で、東京都世田谷区立東深沢中学校野球部とサッカー部の部員合わせて３５名とコーチ７名の計４２名が合宿のため猪苗代町と郡山市を訪れました。同校は震災前から夏合宿及び冬合宿を本県で行っています。

取材に伺った８月６日は、野球部が猪苗代町の野球場で、青空の磐梯山をバックに練習を行っていました。試合形式でコーチがノック打撃をし、守備や走塁の練習を部員たちが声を出し合いながら元気に取組んでいました。野球部の大野徹士主将は「東京では大自然の中で練習できない。この素晴らしい環境を生かしみんなで一致団結し練習したい」と話してくれました。

サッカー部は、郡山市の磐梯熱海スポーツパークで、時折涼しい風が吹く中、コーチ指導の下、ボール回しやパスの受け方など一生懸命練習に取組んでいました。サッカー部の山﨑光主将は「東京都の大会で優勝することを目標に頑張る。達成感を感じる合宿にしたい」と合宿の抱負を語ってくれました。

磐梯山をバックに、練習をする部員たち

野球部集合写真

パス回しの練習をする部員たち

サッカー部集合写真

「第２２回ＪＯＣジュニアオリンピックカップハンドボール大会」が福島市で開催されました！

平成２５年１２月２２日から２６日まで、「第２２回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会」が福島市内の県営あづま総合体育館と福島市国体記念体育館で開催され、３１都道府県から約８００名の中学生が手に汗握る熱戦を繰り広げました。男子の部の優勝は８年ぶり４度目の茨城県選抜。女子の部は初優勝となる愛知県選抜でした。

取材にお邪魔した１２月２４日、福島市国体記念体育館では女子の部・千葉県選抜と宮城県選抜の試合が行われていました。試合後、千葉県選抜の髙木主将に福島県の印象を伺ったところ、「福島県は空気がきれいで自然も多いので、とても過ごしやすい環境です。食べ物も美味しく万全の状態で試合に臨めました」と笑顔で話してくれました。一方、この日の第２戦目となる富山県選抜との試合を間近に控え、髙木主将は同チームの堀米さんとともに、初戦勝利の余韻にひたることなく、次の試合に勝利することを引き締まった表情で誓っていました。

試合開始の挨拶（千葉県選抜は黒いユニホーム）

走り込んで見事にゴール

パスカットを狙いディフェンス

右から髙木主将と堀米さん

全国の高校生がいわき市に集結！「ハイスクールサミットｉｎ東北」開催される。

平成２６年８月９日（土）、北海道から九州までの２１道県３６校８７名の高校生がいわき市に集まり、東日本大震災からの復興に向け、将来のまちづくりなどについて発表する「ハイスクールサミットｉｎ東北」が開催されました。

ハイスクールサミットは、未来を担う子どもたちが将来を考え、全国に発信する場として平成１７年度から本県の相双地区を中心に開催されてきました。震災後は他県で行われていましたが、１０回目を迎えた今回、震災後は初めて本県での開催となりました。

ワークショップ発表では、初めに安倍首相からのビデオメッセージが届けられ、前日から議論を深めた高校生たちが福島の未来や復興など５つのテーマについて発表を行い、避難の経路、緊急時の行動などを事前に決めておくことの重要性や近隣住民間でホットラインをつくる隣組制度など、レベルの高い様々な発表に関係者や観覧者から賞賛の拍手が送られました。

『愛するふるさとの未来を考える』をテーマとした行政関係者とのディスカッションでは、ある高校生から出された「私たちの思いが政治に反映される場面があるのか」という質問に対し、小泉進次郎復興政務官が応答する場面などもあり、活発な意見交換が行われました。

高校生たちは翌日、楢葉町や富岡町などを訪れ、被災現場と復興状況を視察しました。

安倍首相のビデオメッセージ

防災について発表する高校生たち

ディスカッションの様子

行政関係者に質問をする高校生

沖縄県糸満市立西崎小学校合唱部が福島市内の仮設住宅を訪問！

沖縄県糸満市立西崎小学校合唱部５、６年生１５名が、平成２６年３月２３日に福島市音楽堂で開催された第７回声楽アンサンブルコンテスト全国大会の一般の部に沖縄県代表として出場するため来県し、コンテストでの発表前の同月２１日には、震災で被災された方々に少しでも元気になってほしいという思いから、福島市松川町地区にある飯舘村松川第二仮設住宅を訪れ、合唱を披露するなど、村民と心温まる交流をしました。

披露した曲は「Ｂｅｌｉｖｅ」、「手のひらをかざして」や、沖縄の方言で歌われる「あかな～や（夕焼け）」、その後は沖縄の着物に着替えて、糸満市に伝わる「わらべうた」を、輪になり手遊びを交えながら披露し、最後は集会所に集まった村民も一緒に「ふるさと」を歌いました。

歌い終えると、沖縄に残っている西崎小学校合唱部のメンバーを含めた３０名のメッセージと、沖縄の方言で「チバリヨー（がんばって）」と大きく書かれた横断幕を手渡しました。集まった村民は、明るい子どもたちに元気をもらい大変喜んでいる様子でした。

部長の佐久本詩音（さくもとしおん）さん（６年生）ら７名の感想を伺ったところ「自分たちの歌で、少しでも元気になってくれたら嬉しいという気持ちで歌った。わらべ歌を披露した時は笑顔で聞いてくれていたので楽しく発表できた」、「仮設住宅に自分が住むと考えたら辛くて耐えられない気持ちになる。２年で自分の家に帰れると思っていたのに３年経ってもいつ帰れるかわからないという飯舘村の方の話を聞いたときは皆早く帰れるようになってほしいと思った」と話してくれました。

仮設住宅を訪問した合唱部５・６年生のメンバー

振り付きで熱唱する合唱部の子どもたち

手遊びを交えながらわらべ歌を披露する子どもたち

集合写真